



オカピの森：歴史、課題、そして希望

オカピの故郷を探る：地球の肺と呼ばれるコンゴ盆地への理解を深める
第9回東京アフリカ開発会議（TICAD9）パートナーシップ事業イベント
よこはま動物園ズーラシア、2025年7月27日



コルネイ・エワンゴ 教授（Dr. Corneille EWANGO）
キサンガニ大学 コンゴ民主共和国

地球を守るために人々を鼓舞し…数百万人の人生に影響を与え、
変革をもたらす

受賞・表彰歴：

Future For Nature Award – アフリカ 2011

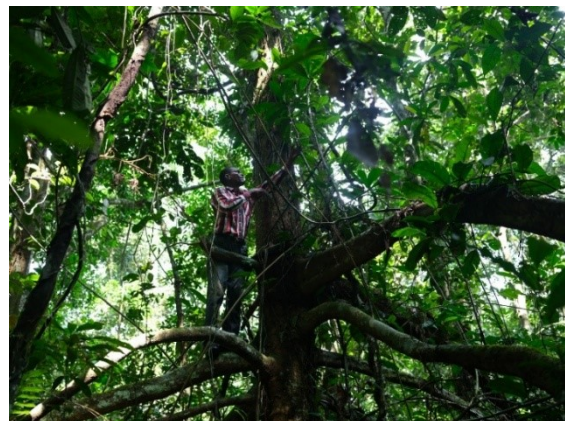
http://www.futurefornature.net/award_winners

新興探検家賞 – ナショナルジオグラフィック協会、2007年

<http://www.nationalgeographic.com/field/explorers/corneille-ewango.html>

ゴールドマン環境賞（グリーン・ノーベル賞） – アフリカ、2005年

<http://www.goldmanprize.org/node/101>



オカピの故郷を探る： 地球の肺と呼ばれるコンゴ盆地への理解を深める



プレゼンテーション の内容



1

導入：オカピが暮らす森

2

歴史的背景：森とその人々

3

現状：森林への圧力

4

保全への取り組み：森への希望

5

未来の課題と私たちにできること

6

森とオカピからのメッセージ

コンゴ民主共和国 Democratic Republic of Congo (DRC)

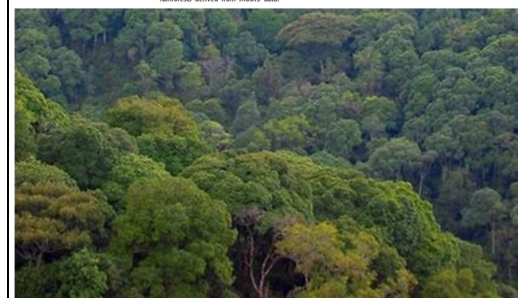
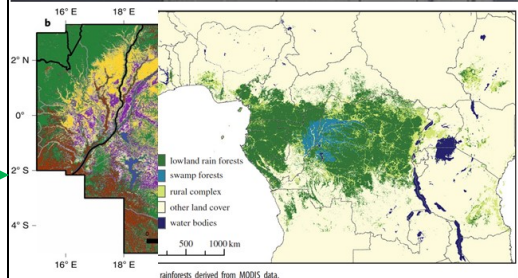
オカピ (Okapia johnstoni)

森林性のキリンです。コンゴ民主共和国の熱帯雨林にのみ生息する臆病で単独行動を好みます。キリンと近縁種であるオカピは、独自の毛皮と、臀部と脚に特徴的な白い縞模様を有しています。

オカピの王国



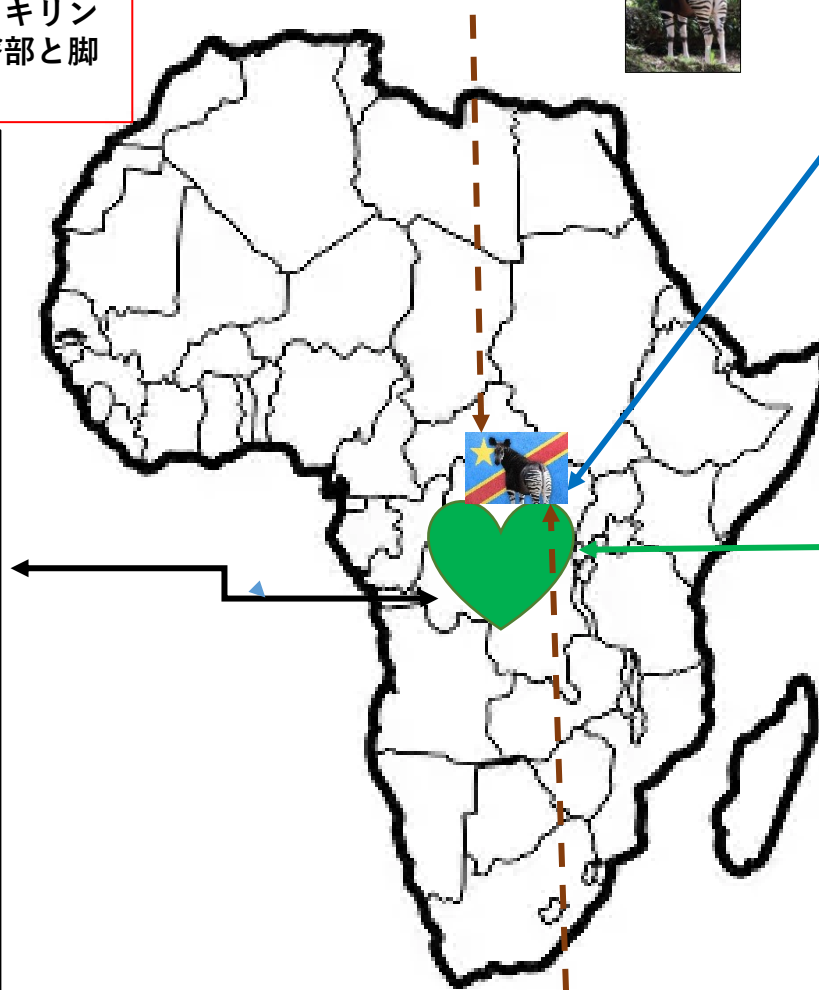
コンゴ川の流域



→ コンゴ盆地の森林

→ 世界最大の熱帯泥炭地

→ アフリカ最大の熱帯林

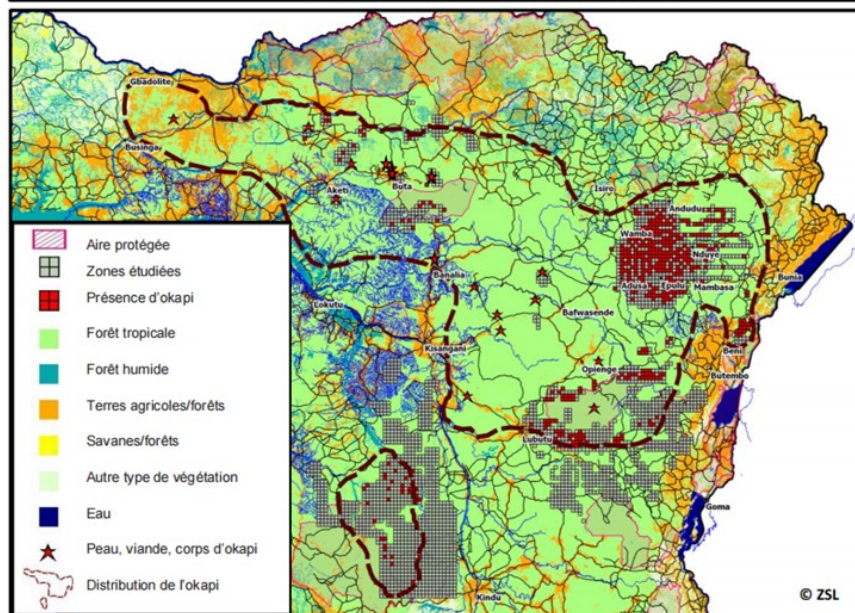
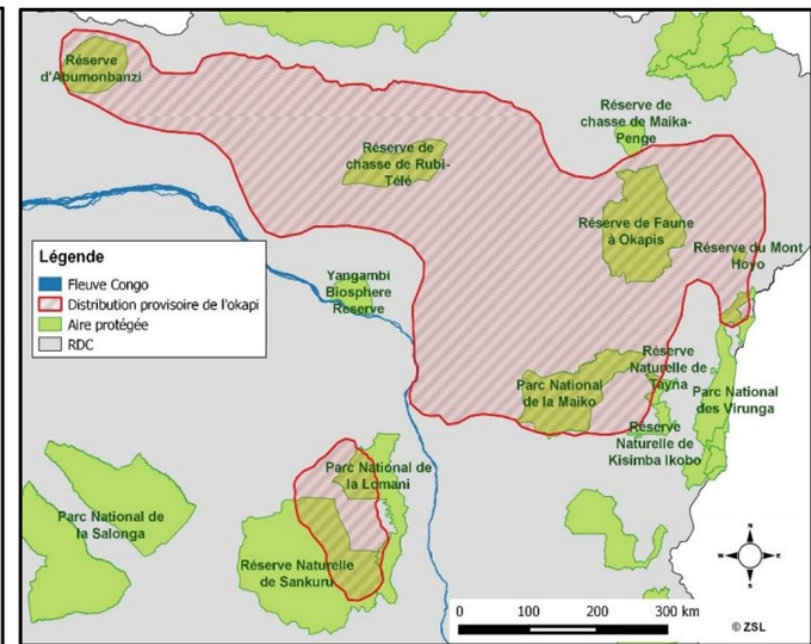
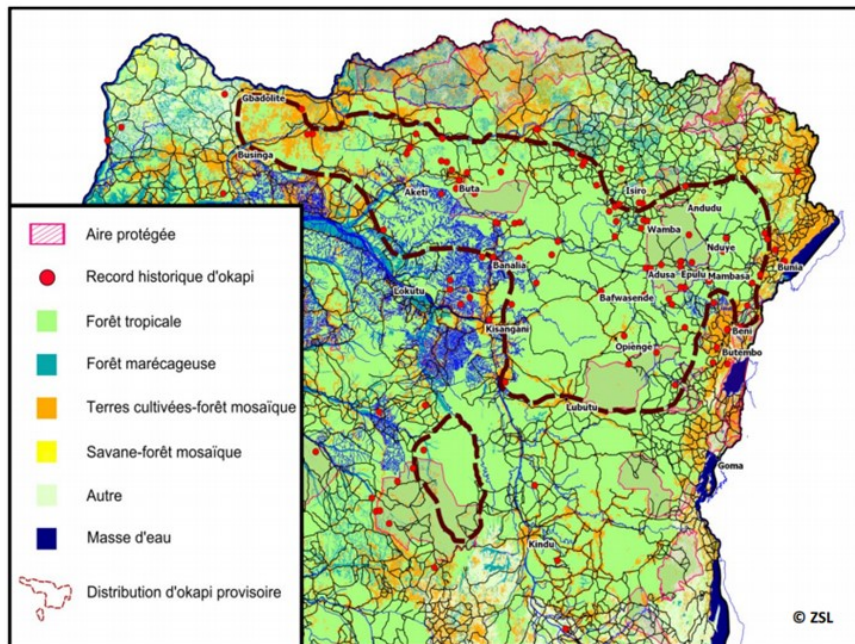


アフリカの心臓部



オカピは象徴的で希少な動物で、コンゴ民主共和国の中央部と東北部の熱帯林に固有の動物です。

オカピの生息域と保護区



- オカピはコンゴ民主共和国北東部の森林に生息しています。
- 生息域はコンゴ川をはさんで、北東から西にかけての広大な地域（右岸）と中央付近の小さな島状地域（左岸）に分かれています。
- この地域には6つの保護区が存在します。
- オカピの総個体数：Hart（2013年）は35,000から50,000頭と推定し、イースト（1999年）は保護区内の個体数を10,000頭を超えると推定しています。

歴史的背景：森、オカピとその住人

□ 初期の保護活動

- ・ イトゥリ (Ituri) の森はオカピの生息密度が最も高いことで知られていました。
- ・ 1945年：プットマン氏が定住し、エプル村を設立。訪問者の娯楽のため、チンパンジーや他の霊長類を捕獲。
- ・ 1946年：オカピ捕獲グループ (G.C.O) が組織され、本国から資金提供を受けた本格的な捕獲作戦が、シュラー氏によって実施。
- ・ 1950年：人類学者のコリンは、著書『The People of the Forest』でピグミー族を記述。
- ・ 1952年：メディーナ氏がオカピ捕獲・飼育拠点を設立。しかし、ピエール・ムレレの反乱により、1964-1966年の2年間、同施設は放棄。
- ・ 1967年：ジャン・デ・メディーナ氏が完全に破壊された同施設に戻り、再建。その後、国家の所有となり、ザイール自然保護研究所が管理。

□ 保護区の設立

- ・ 1981年：保護区の設立。
- ・ 1992年：1992年5月2日付の省令第045/CM/ECN//92号により、オカピ野生生物保護区 (RFO) の境界が定められ、コンゴ自然保護機構 (ICCN) が管理

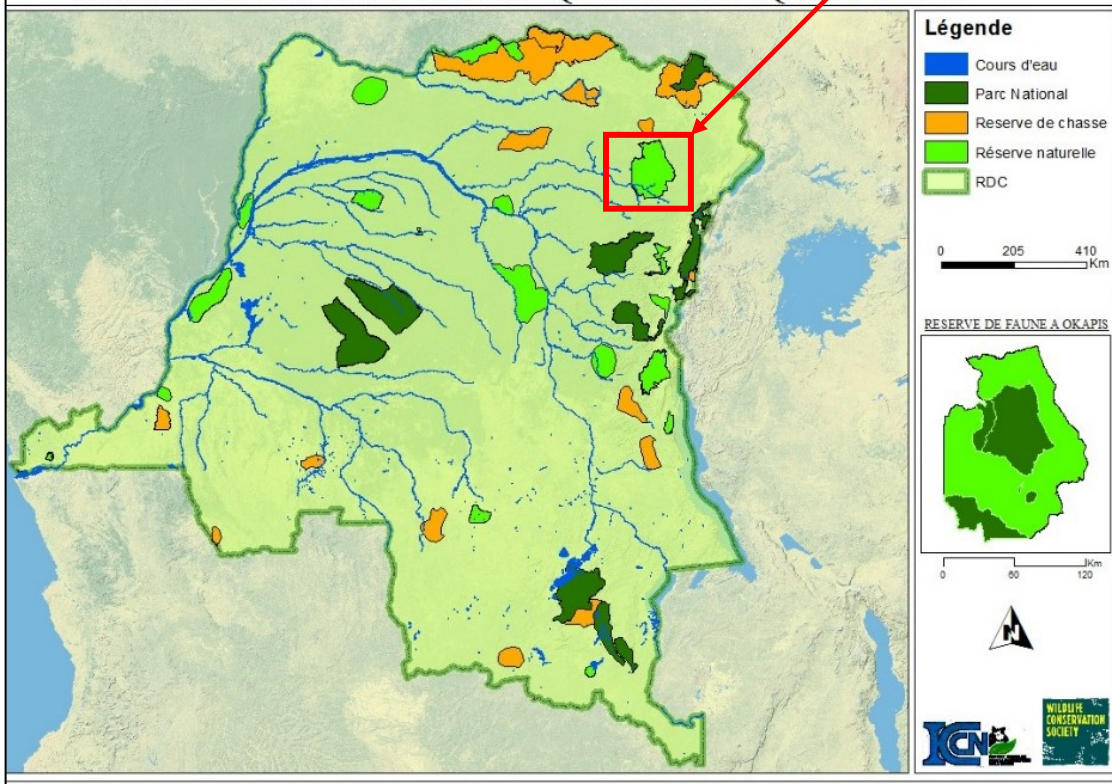


ジャン・ド・メディーナ、1957年12月1日、バーゼル動物園にて、© バーゼル市州立アーカイブ、BSL 1013 1-1018 1 (写真：Hans Bertolf)

歴史的背景：オカピ野生生物保護区（RFO）



LES AIRES PROTEGEES DE LA REPUBLIQUE DEMOCRATIQUE DU CONGO

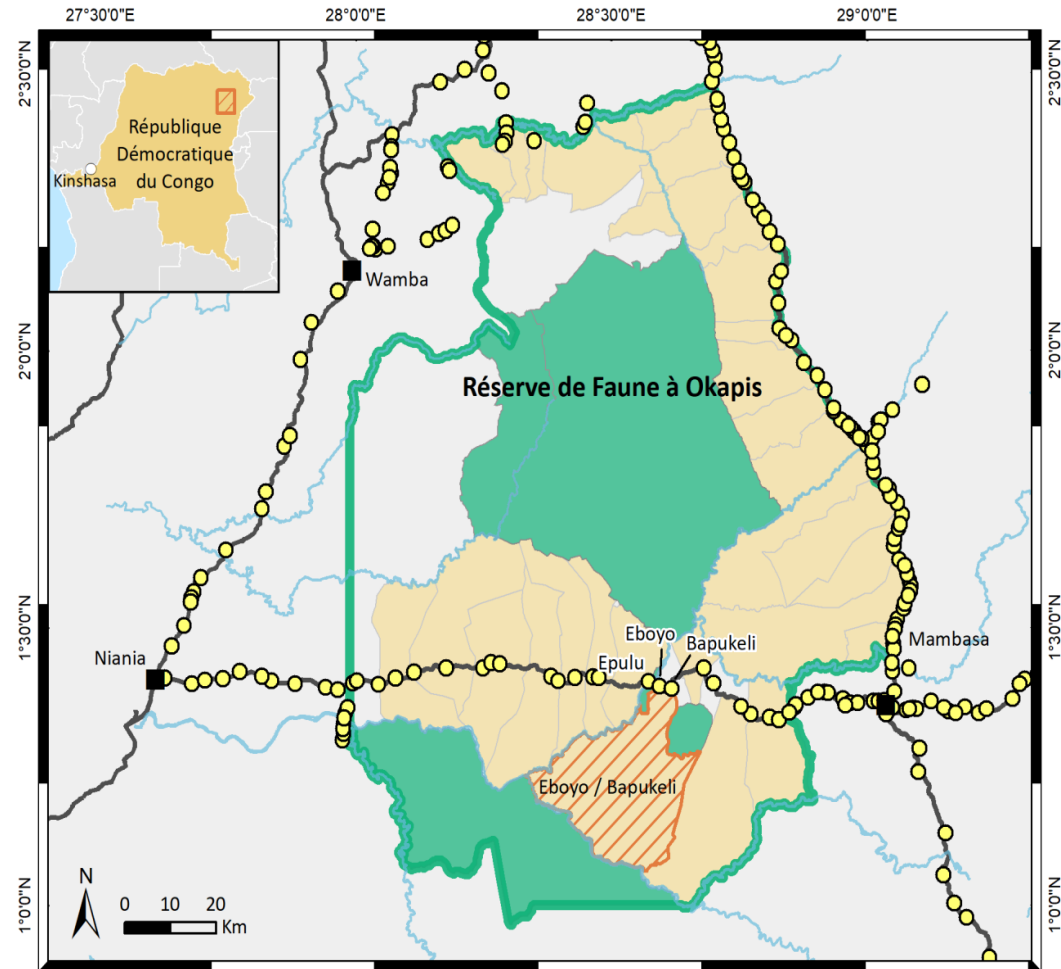


□ 設定と地位

- 1992年：保護区の設定
- 1992年5月2日付大臣令第045/CM/ECN//92号により、RFOの設定と境界が確定。
- 面積：1,372,625ha
(13,726km²)
 - ※ 知床世界自然遺産地域(陸域)の約25倍、栃木県+群馬県と同規模)
- 1996年12月15日：国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界自然遺産として登録。
- 1997年：戦争、密猟、違法な鉱物採掘、移民流入など様々な脅威により、**危機遺産リスト**に登録。

オカピ野生生物保護区（RFO）の現状

- IUCN（国際自然保護連合）が設定するカテゴリーVI（自然資源の持続可能な利用を伴う保護区域）に分類。
- コンゴ民主共和国（DRC）で初めての人口密集型保護区。先住民族とバンツー族（コンゴ民主共和国で大多数を占める民族グループ）が多く居住。
- 2009年時点で、保護区の周辺部には約40万人の人口が居住。現在、この数は、戦争とそれに伴う不安定な状況に直面するコンゴ民主共和国の東部地域から移民流入により、大幅に増加。



Légende

 Aire protégée - RFO

 Zone de protection intégrale

 Zone de chasse

 Village

 Zone de chasse des villages suivis

 Petite ville

 Routes

 Rivières

Carte créée par F. Sandrin. / WCS - Mai 2022

Création de la RFO :

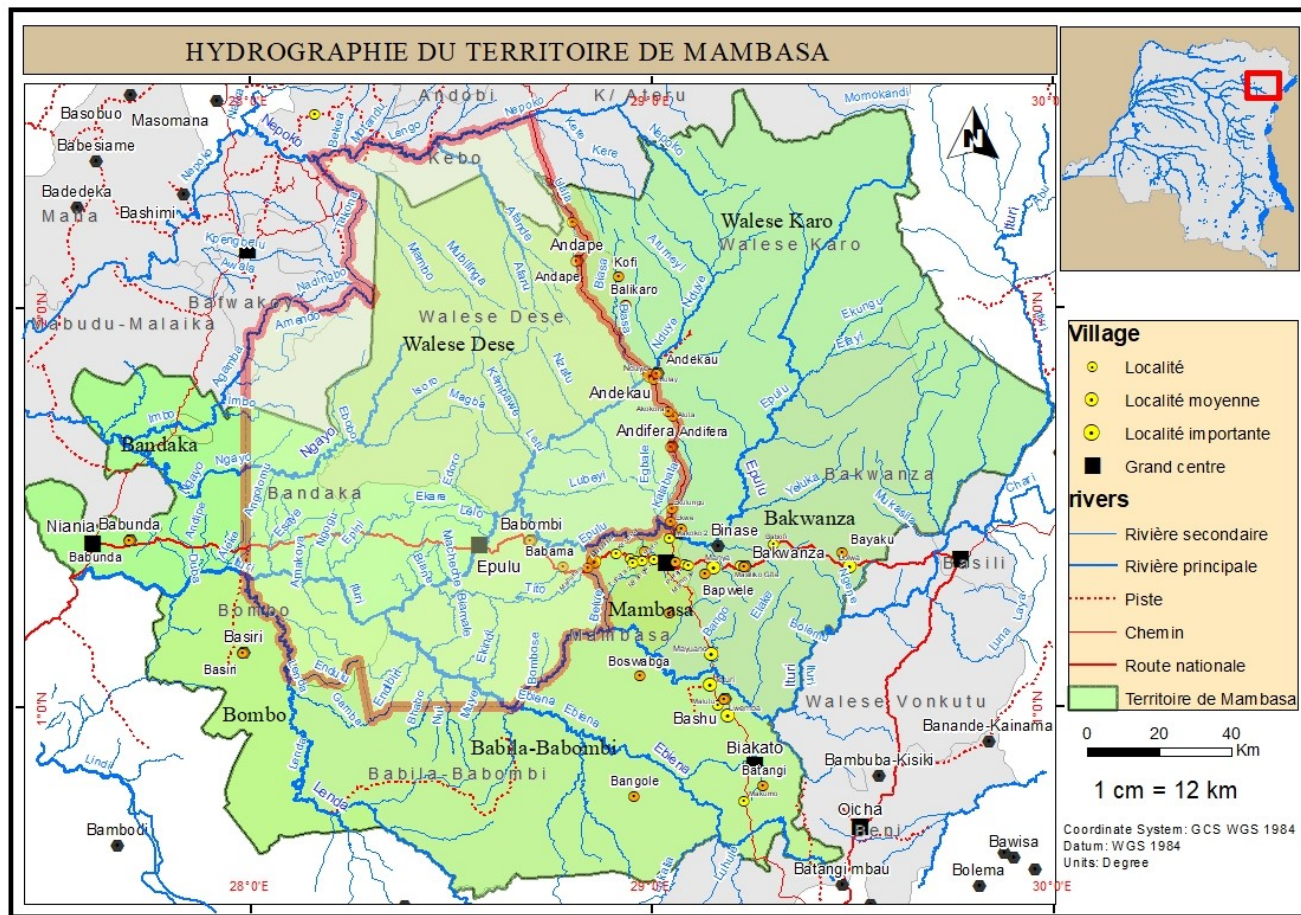
Décret 045/CM/ECN/92 du 2 Mai 1992

Zonage des zones de chasse : 2000-2015

Données WCS-RDC

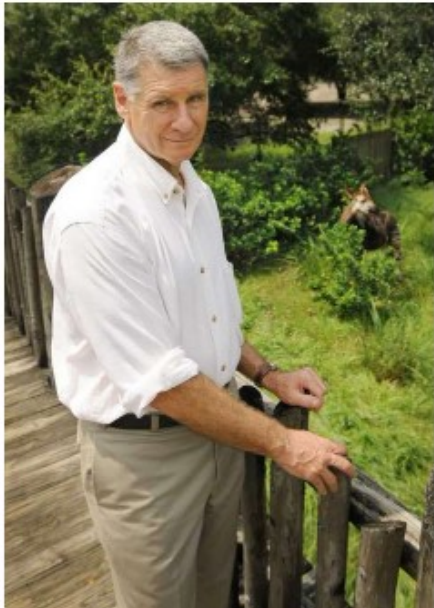
地理的および行政上の地位

- イトゥリ (Ituri) の森の中心部
- 2州 (Ituri州とHaut-Uele州)
- 56の行政区画
- 保護区内外には260を超える村が点在



ザイール（旧国名、現在のコンゴ民主共和国）へようこそ

□37歳のジョン・ルカス氏は、1980年代後半に貨物機で首都キンシャサに到着しました。



□フロリダ出身で動物学の学位を持つルカス氏は、長年東アフリカと南アフリカでサファリを企画してきましたが、アメリカ動物園で見た不思議な動物を自然の中で観察したいと夢見ていました。

□1980年代、コンゴには自然保護に熱心な環境省が存在し、国の自然資源を保護する取り組みを進めていました。



□1987年、彼はゴマ（コンゴ民主共和国東部の都市）から陸路で7日間の旅を経て、才能ある環境保護活動家たちと共にイトゥリ（Ituri）の森のエプル（Epulu）というところに到着しました。

□1992年、オカピ野生生物保護区は政府によって正式に設立されました。

□その後、エプルにオカピの飼育・適応センターと小規模な動物園が建設され、14頭のオカピが飼育されるようになりました。

ジョン・ルカス氏:

「熱帯林のオカピ（森林性のキリン）は、かつて伝説のユニコーンとされていた、この生物が、20世紀で最も興奮を呼んだ分類学上の発見の一つでした。」

人生 - 使命 - 情熱



ジョン・ルカス氏とオカピ（エプルにて）

「政府から委ねられた私たちの使命は、エプル（Epulu）をオカピで有名にすることでした。人々がこの動物を実際に見ることができるようにするためです」とルカスは説明しました。



ロズマリーとカール・ルフによるオカピへの給餌（エプルにて）

素晴らしい探検家カップル

「私たちのミッションは、1970年代から行われた観察と発見の成果です。ジョンは1973年に奨学金を得てコンゴ民主共和国に到着し、東部のムブティ族（ピグミー）と共に生活しました。一方、テレサは1974年にピース・コー（米国政府による国際ボランティア事業）の一員としてコンゴのミッション学校で教鞭をとり、コンゴ人の家族と共同生活するためにこの地にやってきました」

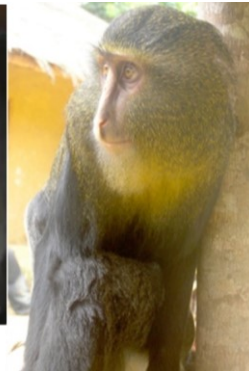
「私たちは自転車で東アフリカ大地溝帯を巡り、ルウェンゾリ山に登り、ヴィルンガ国立公園も訪問しました。そして結婚しました。その後の数年間は、イトゥリでの自然環境分野の博士号取得のための研究に費やされました。その後、私たちは米国ニューヨークを拠点とする国際自然保護団体である野生生物保護協会（WCS）で働くことになり、オカピ野生生物保護区の設立と世界遺産登録に貢献することができました。私たちは、今もコンゴ民主共和国に拠点を置いています」



Bonobo



Cercopithecus lomamiensis



彼らはレスラ（*Cercopithecus lomamiensis*）を新種類のサルも発見しました。

生物学的価値：野生動物の個体群

- 1,500～3,000頭のオカピが生息。
- コンゴ民主共和国（DRC）における最後の主要な森林ゾウの個体群が存在していると考えられている。公園設立当時には6,000頭未満と推定されたが、2028年のセンサスによると現在は約600頭（推定範囲：400～1,000頭）にまで減少。
- 約5,000頭と推定される、重要な個体数の東部チンパンジーが生息。
- その他、ジャイアントセンザンコウ（水棲のセンザンコウ）、ウォーターシェブロタン（ウォーターシェブロタン：小型のウシ科動物）など、全体的または部分的に保護対象となっている種も確認。



生物学的価値：野生動物の多様性



Buffle de forêt



Antilope Bongo



Singe de wolff



Singe d'Angola



Cephalophe à dot noir



Cephalophe bleu

- 約100種の哺乳類。
- 1つの保護区内で最も多様な種構成
 - 17種の霊長類
 - 13種の昼行性種
 - 4種の夜行性種
- 10種のアンテロープ

生物学的価値：野生動物の多様性

- ・ 約376種の鳥類（ヨウムを含む）
- ・ 26種の爬虫類（蛇）
- ・ 約578種の蝶
- ・ 魚類：72種の魚
- ・ 無脊椎動物とその他の多くの種



生物学的価値：植物相（フローラ）

□ 約**2,500**種の植物

高級木材

（マホガニー、イロコなど）



固有種

イトゥリ・ソテツ
Encephalartos
ituriensis,

アロエ属 *Aloe sp.*

ラン科植物（約100種）



生物学的価値：生息地の多様性



Gilbertiodendron dewevrei

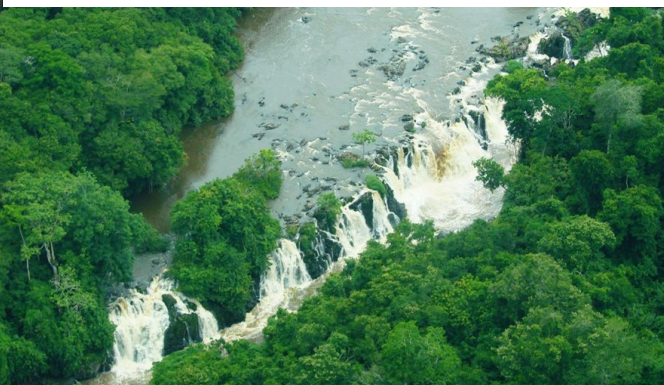
が優占する単一樹種林

さまざまなタイプの湿地林
(*Raphia spp.*、*Pandanus sp.* など)



乾燥地の混合林

(*Cynometra alexandri*、*Julbernardia seretii* など)



オカピ野生生物保護区の中心部で轟く
アラビア滝（シュート・アラビア）

Baie (Edo/clairières) entretenue par les activités
des grands mammifères à l'intérieur



岩が露出した地形) Inselbergs)



民族文化の価値と民族的多様性

- オカピ保護区（イトゥリの森）に住む2つの民族グループ：
 - ・ バンツー系住民（ビラ族、ブドゥ・ボンボ／ンダカ族など）およびスーダン語族話者（レセ族、マンヴ族）
 - ・ 先住民族のムブティ・ピグミー（オカピ野生生物保護区〔RFO〕内に約1万人）
- オカピ野生生物保護区内外で、天然資源を直接利用している住民は約56,759人にのぼる。
 - ・ うち20,797人が保護区内に居住
 - ・ 35,962人が保護区外の半径15km以内に居住



歴史的背景：森、オカピ、そしてその森に暮らす人々

- ムブティ・ピグミーの村人たちは、何千年もの間、イトウリの熱帯林で暮らしてきました。
- 彼らは、森とオカピ、そしてその自然環境と完全に共生し、ローカルな先住民族の特徴を備えています。
- オカピ野生生物保護区は、彼らの遊動的な暮らしを支えるために、医療サービスや経済的支援を提供しています。



Okapi est un TOTHEME (Sacré) = Yarabi = Miracle of God

社会文化的価値：伝統的な儀式



家づくりに関わる
女性たち



美の信仰：伝統的な入れ墨

精神文化に根ざした活動



娯楽の儀式



Rites d'initiation à la vie de famille



社会経済的な価値と暮らしのあり方



先住民族（ピグミー）：自給的な遊動生活

狩猟
採集
漁労



バンツー系住民：集落での定住生活

農業

狩猟

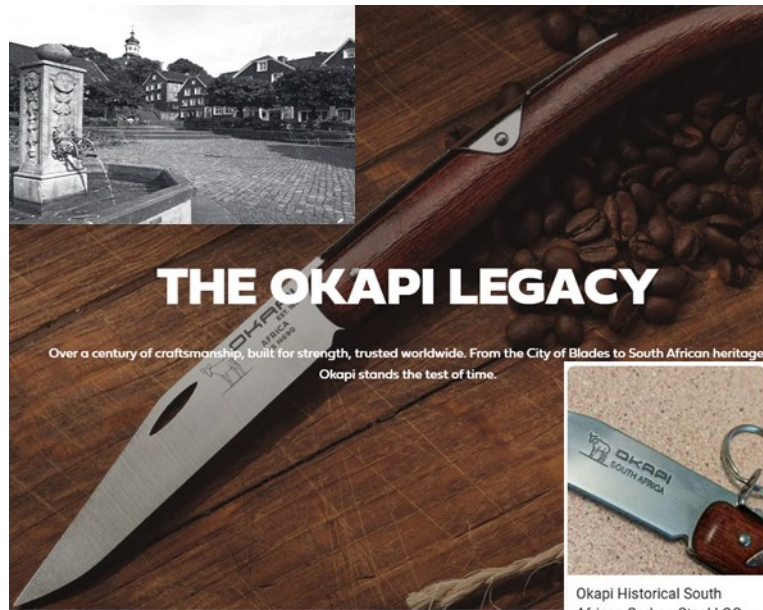
漁労

小規模な手掘り採鉱



オカピからインスピレーションを受けて

- ・ オカピ・ナイフには豊かで波乱に満ちた歴史があります。
- ・ 1902年、オカピ・ナイフは刃物とナイフ製造の技術で知られる都市ドイツ・ゾーリンゲンで初めて発売・製造されました。
- ・ このナイフはアフリカのドイツの植民地市場に輸出するために、手ごろな価格の折りたたみナイフとして設計されました。



- オカピはコンゴ民主共和国では生活のあらゆる場面にその姿が見られます。オカピの姿はレストラン、タバコのパッケージ、ペットボトルのラベル、さらにはコンゴ・フラン紙幣の裏面にまで描かれています。
- 10月18日は「オカピの国際デー」、オカピが中央アフリカ、特にコンゴ民主共和国の奥地でしか見られない希少な種であることを広く伝え、その保護の必要性を訴える日とされています。

- ❖ Okapi = symbole de Paix, d'artisanat, de durabilité, d'endurance, de résilience et de confiance.
- ❖ Depuis plus d'un siècle, Okapi a résisté à l'épreuve du temps et s'est imposé auprès de ceux qui exigent la paix: RADIO OKAPI.
- ❖ Tout en honorant notre passé et en poursuivant notre innovation, nous restons engagés, Okapi continue d'être un compagnon de confiance pour les générations à venir.

保全に向けた課題

- 焼畑農業による森林の伐採および劣化
 - ・ 伝統的な土地利用様式の変化
 - ・ 土地利用計画（区分け：ゾーニング）の持続可能性への脅威

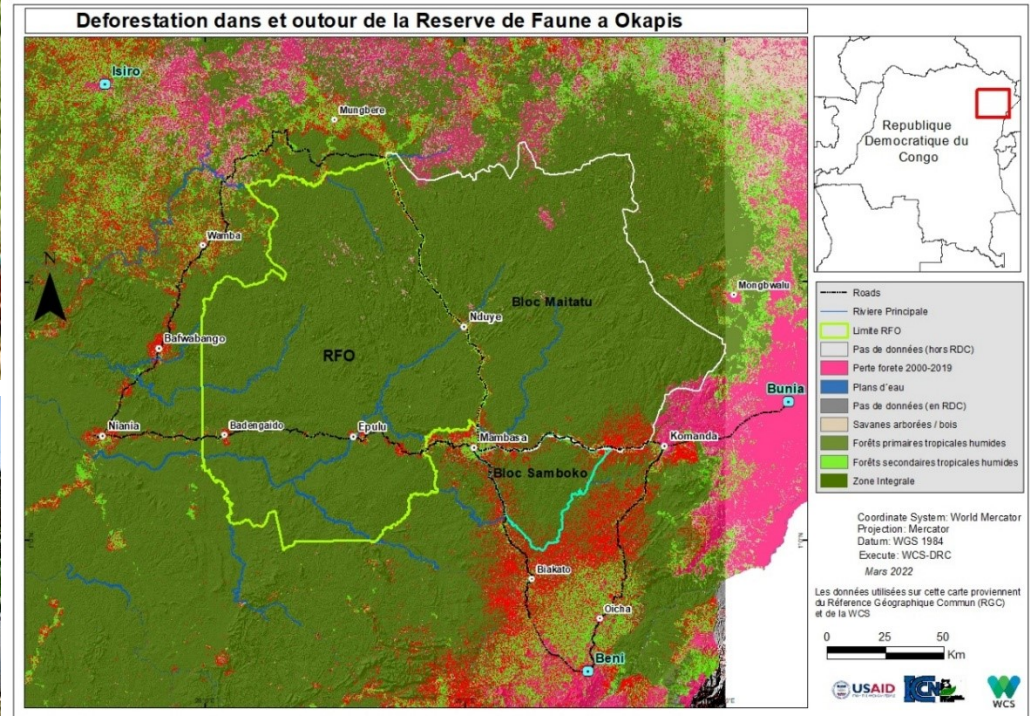


Conversion de la forêt par l'agriculture non-durable

木材生産などによる森林減少と劣化



- 木材生産のための小規模伐採（Artisanal Logging）
- 建材
- 炭・薪



森林伐採と森林の劣化は、生息地と生物多様性の喪失を引き起こします。

保護区における違法な鉱山開発の急増

- コンゴ民主共和国は世界のエネルギー転換の中心にあり、その豊富な重要鉱物資源は、世界的なクリーンエネルギーへの移行において重要な役割を果たしている。
- 同国は、**コルタン、スズ、タングステン、タンタル**といった、現代の電子機器やクリーンエネルギーシステムに欠かせない鉱物を多く保有している。
- 外国人労働者の関与と、周辺地域で地元労働者が簡単に採れる鉱物資源の不足
- 若年層の失業政治指導者、地元エリート、国家公務員の保全へのコミットメントの欠如
- 差別（スティグマ）と影響力乱用
- 保全からの配当収入が違法活動からの利益に比べて低い等



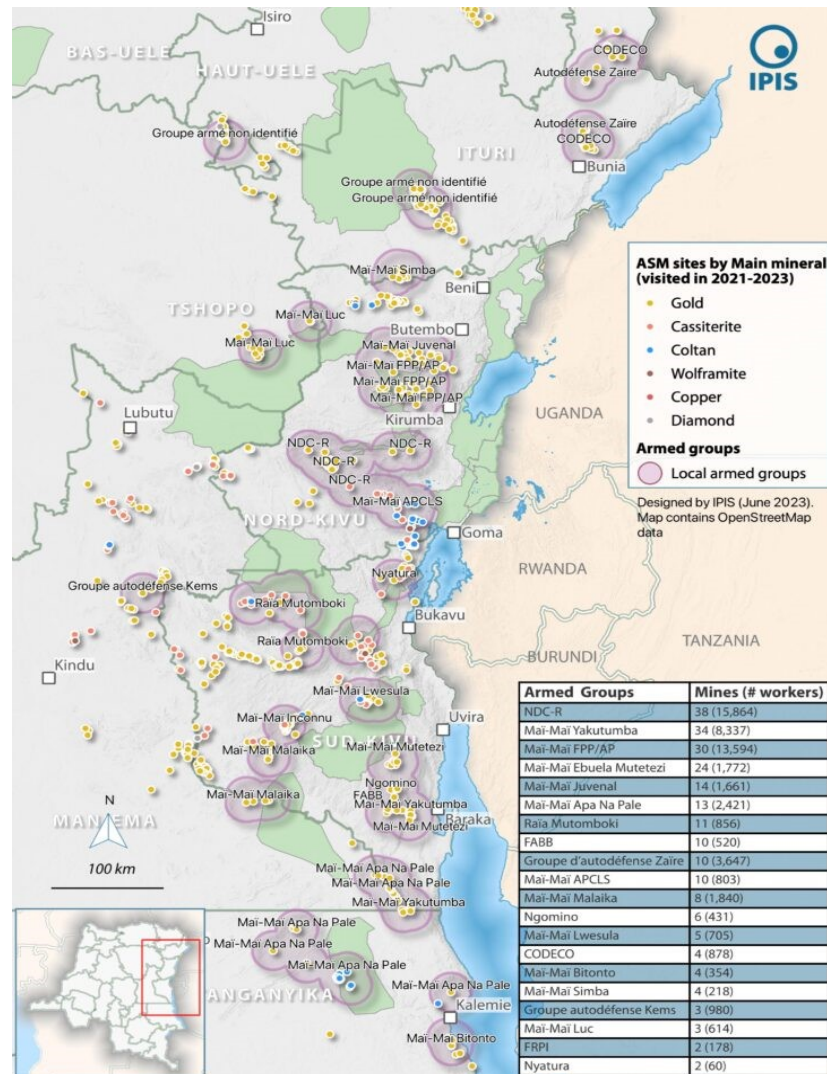
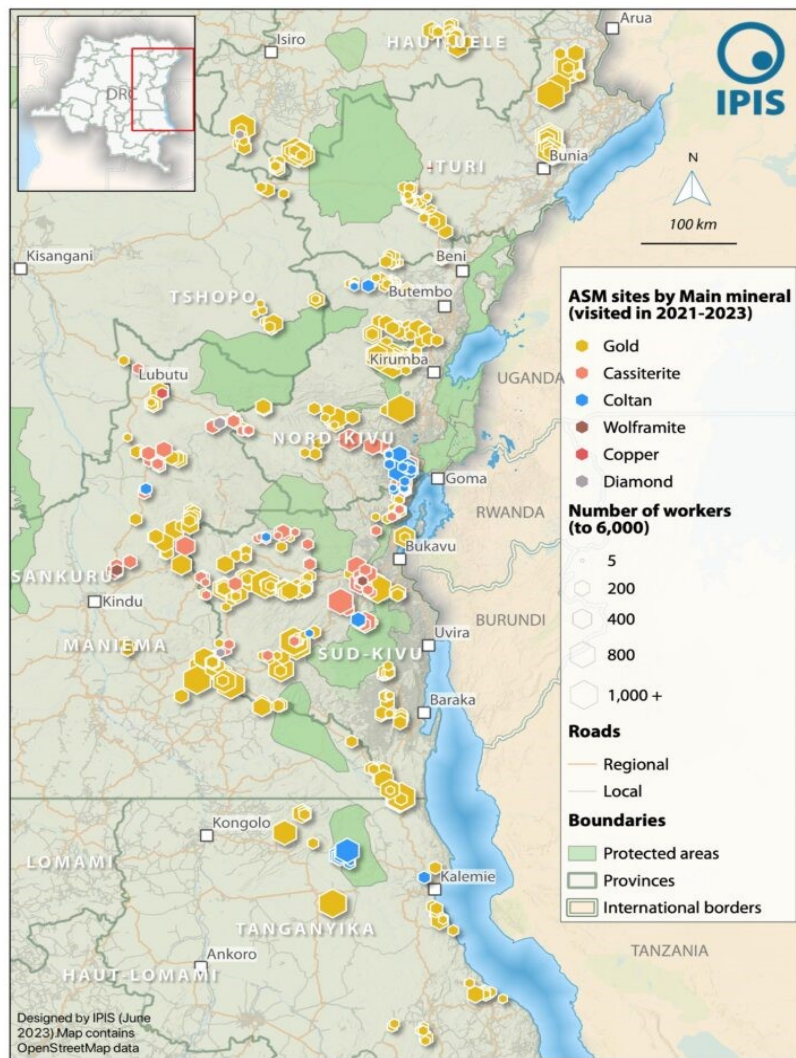
Exploitation minière artisanale

Exploitation minière semi-industrielle illégale (chinoise)

Base des chinois au Sud-Est RFO (Cflt Ituri-Belue)_Mai. 2018



コンゴ民主共和国における零細鉱業のサプライチェーン と紛争資金調達仕組みへの理解



2021～2023年のASM(零細鉱山開発)サイトに介入する武装グループの地図：829か所（IPIS 2025年報告の更新）

オカピは鉱物資源をめぐる紛争地帯の中心に位置

現状：森とオカピが鉱山開発の圧力にさらされている

MUCHACHA Mai 2018



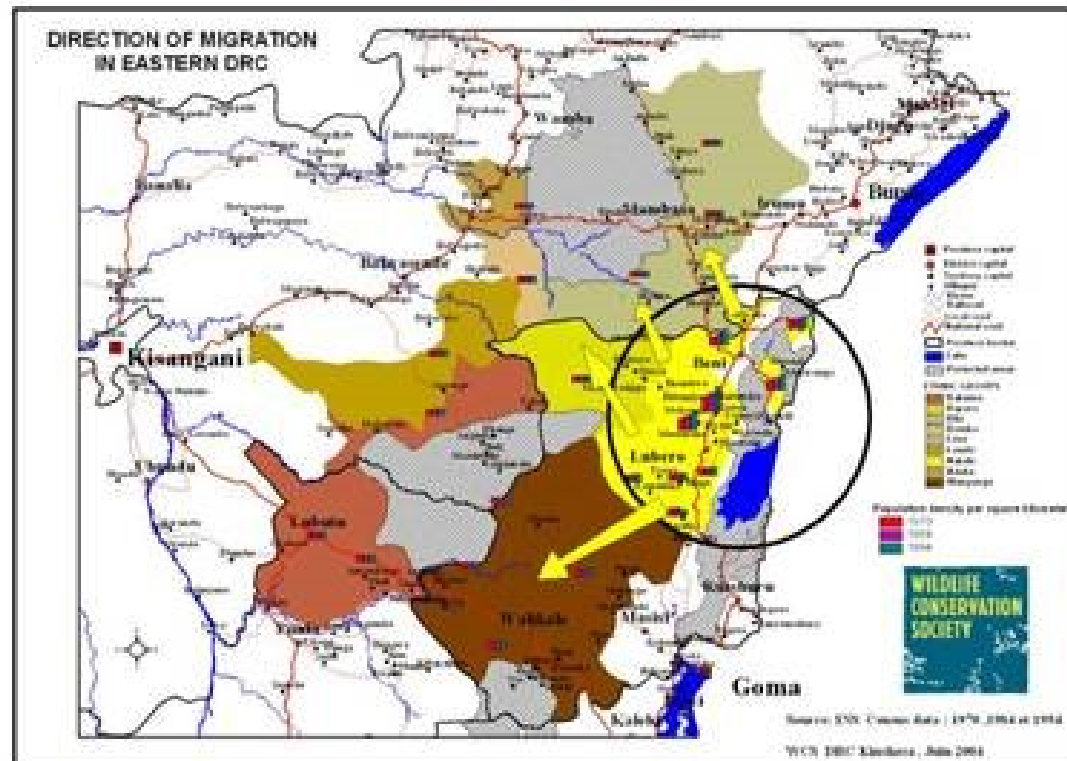
©Rosmarie Ruf

BADENGAIDO_Mai 2018



©Rosmarie Ruf

保護区周辺における人口の急増は、主に人口密度の高い地域（North Kivu州, Haut-Uélé州, Ituri州, そして最近では Tshopo州からの 移住によるもの。



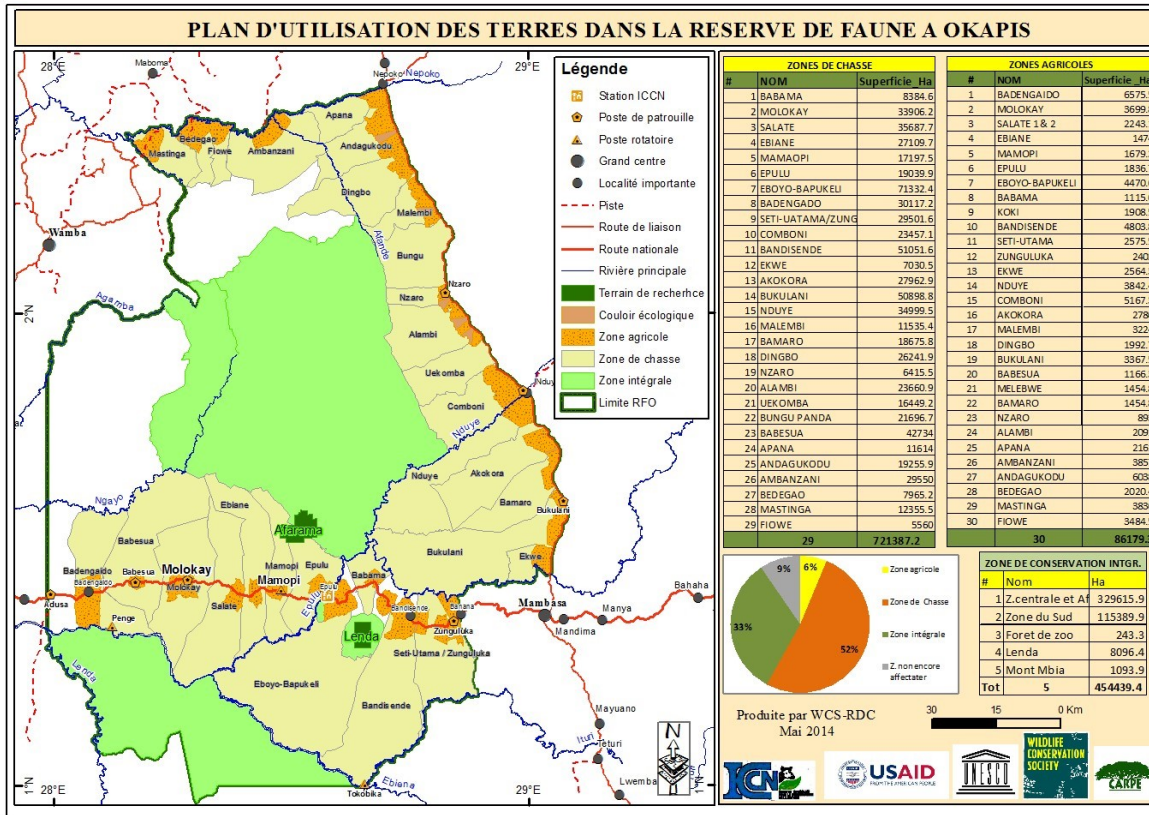
密猟：野生動物、特にオカピとゾウへの影響



偶蹄類や霊長類を対象とした持続性のない狩猟



森林とオカピを守るための取り組み 地域住民による保全活動



保護区カテゴリーVI（IUCN基準）
天然資源の持続可能な利用を伴う
保護地域

- **土地の割り当て（区分け・ゾーニング）および天然資源アクセス指針の策定：**
 - ・ 32の農業ゾーンを区画
 - ・ 29の狩猟ゾーンを地図化
 - ・ 厳格な保全ゾーン（境界交渉のプロセス進行中）
- **土地利用計画：**
 - ・ 利用目的
 - ・ 管理体制
 - ・ 天然資源へのアクセス指針（DARN）



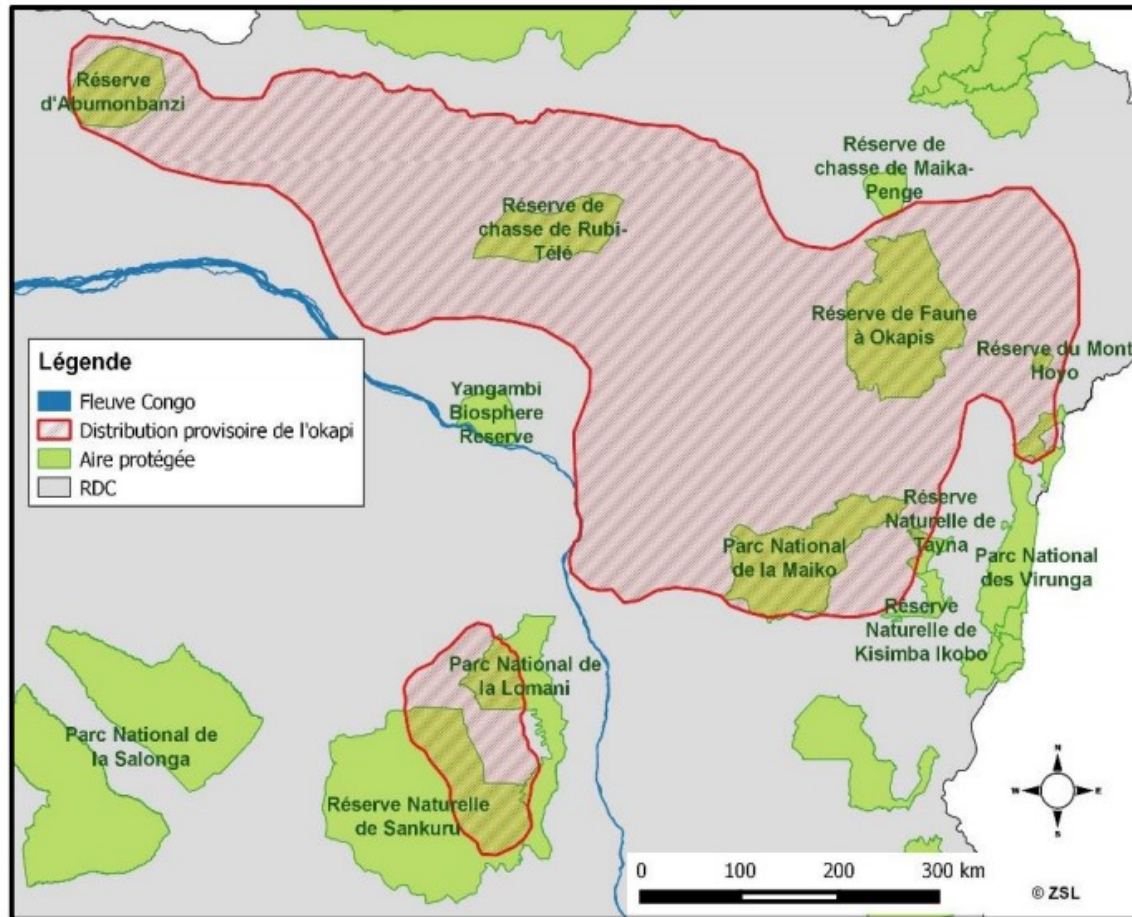
森林とオカピの保全への取り組み

地域住民の参加、教育、代替生計手段の提供

- 地域住民の持続可能な生計活動の促進
- 持続可能な農業：カカオやアブラヤシ（オイルパーム）の栽培
- アグロフォレストリー（木を植えながら作物も育てる、自然にやさしい農業）
- 生計手段（マイクロクレジット、小規模ビジネス、インフラ整備など）
- 環境教育
- ジェンダー平等とぜい弱な立場の人々の支援（人権など）



森林とオカピを守るための取り組み 野生動物の保護活動



- オカピの分布地域（赤色斜線のエリア）には、合計6つの保護区（緑のエリア）が設置されています。

オカピの守り手だった人たちに捧ぐ追悼

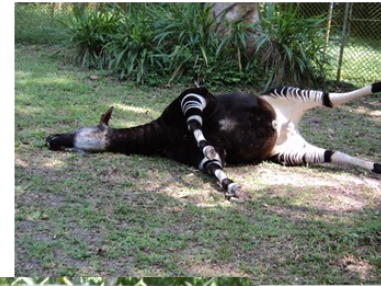


武器、金、コルタン、そして勇気

2003年、カール・ルフ、ンランバ、そしてオカピ保護プロジェクトの若きホープ、カンバレ・サーンビリは、戦争指導者たちと、占拠されていた保護区（当時）を守るための合意を取り付けた会議の帰り道、山道でコントロールを失ったバスと衝突し、彼らは亡くなりました。関係者は一瞬にして、最も優秀な3人を失い、そして、さらなる困難がこの後、次々と襲いかかることになりました。

オカピ飼育・適応センター（エプル）の暗黒時代

- 1964年、ムレリスト反乱軍がエプルでオカピ捕獲に活躍していたゾウたちを殺害したといった事件があった。



- 2012年には、武装民兵がエプルの施設を襲撃し、警備員を含む7人とオカピ14頭を殺害した。



殺害されたオカピの名前、誕生日と性別

エプルにあるオカピ関連施設への襲撃

- 2012年6月24日、オカピ野生生物保護区はこれまでに最悪の襲撃を受けた。サダラ（通称モーガン）率いる武装反乱組織**Mai-Mai Simba**の一団が、エプルのオカピ飼育・適応センターを襲撃したのである。



2012年の攻撃で、エプルにあるICCN（コンゴ自然保護機構）の本部が略奪され放火された。

- 基地にいた14頭の飼育下のオカピはすべて殺され、建物は焼き払われた。さらに、警備員2名と民間人2名を含む100人が拉致され、男性は荷物運びとして、女性は妻として連れ去られた。

自然保護のための戦略

● 保全に関する法執行の強化

- ・ 監視インフラ：固定パトロール拠点7か所、交代制パトロール拠点3か所
- ・ コンゴ自然保護院（ICCN）によって配備された森林警備員330人の訓練 - 密猟を60%削減
- ・ エコガード（自然保護員）の継続的な訓練と再教育
- ・ 機能する法的枠組みの整備



ICCN（コンゴ自然保護機構）による監視体制の強化

- 教育、農業、女性の自立支援分野での取り組みが、地域住民と地球環境の双方を支援
- 周辺住民の生計手段の改善
- 20以上の国際パートナー
保全努力を強化し、持続可能な変革を促すために世界規模で連携



保護区内における密猟対策と『武装勢力』の根絶に向けた取り組み

今後の課題と私たちにできること ― 気候変動

- 森の奥深くで科学者たちはコンゴ盆地の森林と気候変動との関係を研究しています。
- 研究者たちは、世界で2番目に大きな熱帯林が気候変動（地球温暖化）にどう反応し、またどう影響を与えているか、その解明に挑戦しています。
- こうした活動で得られた知見は、地球全体の気候の安定に貢献しています。そこに生息する多様な生き物たちが、最終的には人間社会を支えています。



- 気候変動、保全、啓発の文脈において、オカピの森林生態系を理解するための研究支援が求められています。

CITES第20回締約国会議

号外：最新の動き

※ CITES：ワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）



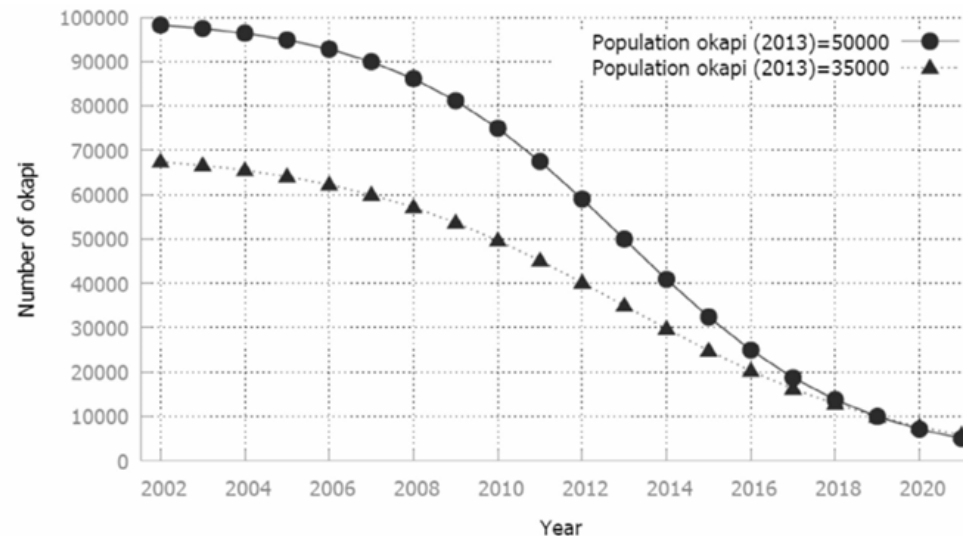
開催地：ウズベキスタン・サマルカンド（2025/11/24～12/5）

<https://cites.org/eng/cop/20>

● CoP20 提案5：附属書IおよびIIの改正提案の検討A

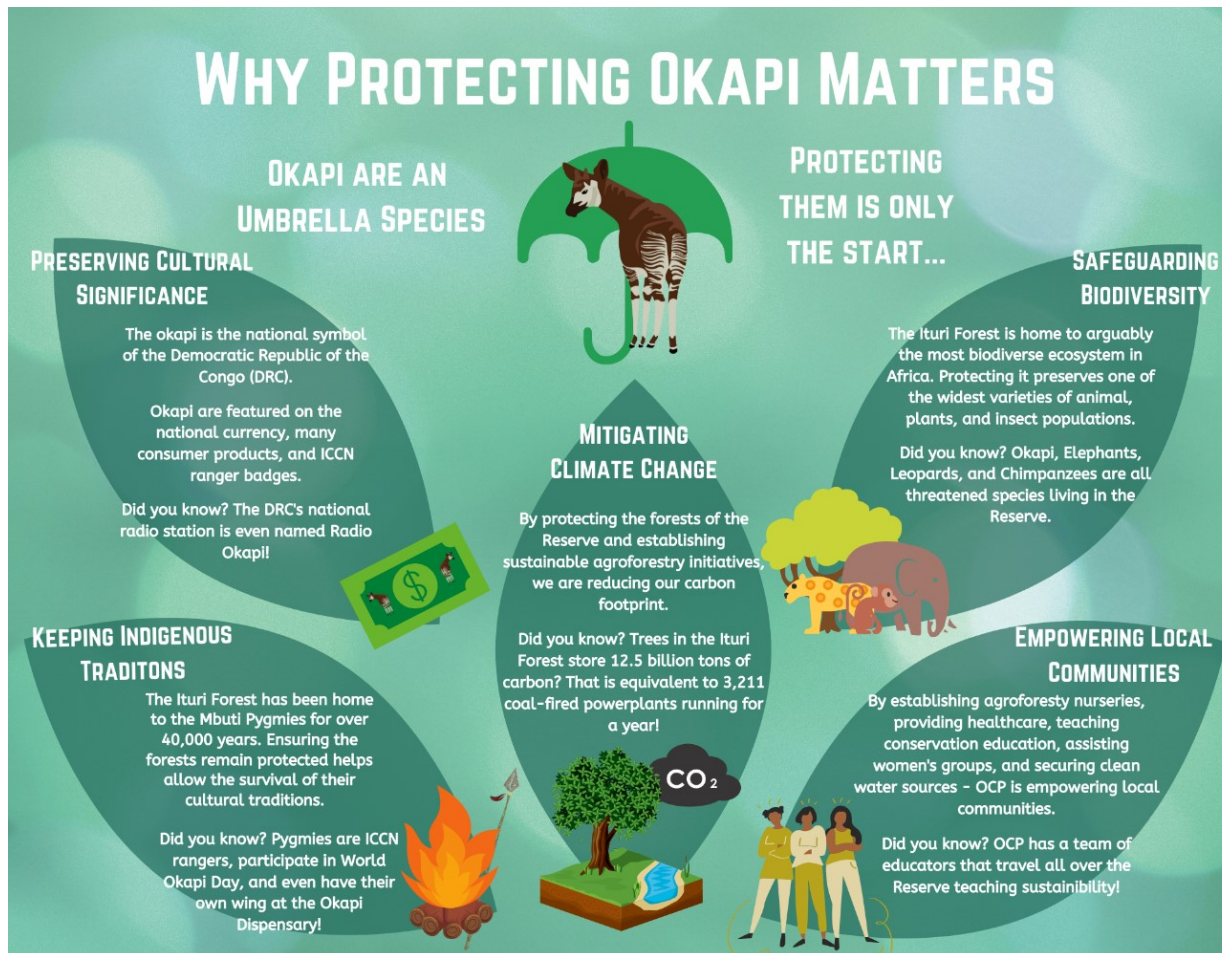
コンゴ民主共和国がオカピを附属書I（絶滅の危機に瀕しており、国際取引が原則禁止されている動物リスト）に格上げして保護を強化することを提案：

- ・ オカピは附属書IのパラグラフA(i)の基準を満たしており、野生個体群の数が少なく、個体数や生息地の面積および質において観察された、または推定される、あるいは予測される減少が見られます。
- ・ また、パラグラフB(iv)の基準も満たしており、野生個体群の分布域が限られており、その分布域、生息地の面積、亜集団数、生息地の質において観察された、または予測される減少が見られます。



コンゴ民主共和国はオカピを保護対象とし、商取引から完全に除外するよう要請する予定。

オカピの野生における将来を なぜ気にかけらるべきなのか



オカピは、非常におとなしく、単独で行動する動物で、コンゴ民主共和国の熱帯雨林にのみ生息。オカピの保護は、生物多様性保全、気候変動対策、文化的意義の保存、先住民族の伝統継承、地域コミュニティの強化に貢献する重要な「アンブレラ種：その種を守れば他の多くの種も守れる動物」としての取り組みである。

結論：森からのメッセージ

- オカピは「森の幻」とも呼ばれ、最も神秘的で知られていない、そして世界で最も絶滅の危機に瀕している種のひとつです。
- アフリカのコンゴ民主共和国（RDC）の熱帯雨林にしか生息しておらず、密猟、違法な採掘、森林減少によって脅かされています。
- しかし、皆さんの支援があれば、この流れを変えることができます。
- 国際協力と長期的取り組みの重要性が問われています。

私たちにできる行動は次のとおりです。

- 保全活動を支援すること
- 一般の人々への啓発を行うこと
- 倫理的な消費を促進すること
- そして、野生のオカピの未来を案じること

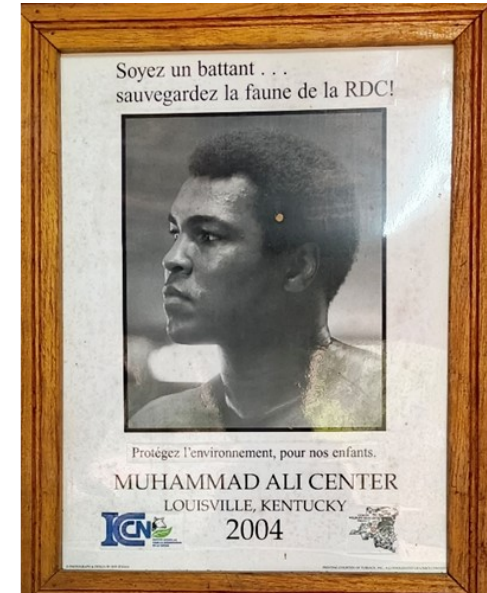
オカピを守ることが、コンゴ民主共和国の発展にもつながります！



This is not just a crisis for the Congo.
It's a crisis for the world.
We can solve this crisis together.



みんなでオカピを守りましょう！



プロボクサー：モハメドアリ



オカピ野生生物保護区 エブル（オカピ飼育・適応センター） 視察 写真展

□ 2025年6月—希望と回復力、そして信頼の旅へ。



オカピの暮らす自然と
その環境を守る人々との出会い



ICCN（コンゴ自然保護機構）の本部から望むエプル川の風景。
ナイルワニたちが日光浴をしています。

オカピの遺産 — 勇気

このような悲劇（夫が会議からの帰路に交通事故死）があったにもかかわらず、ロズマリーは夫の遺志を継ぎ、保護区の運営を続ける決意をしました。

「やめるわけにはいけないと思っていました」と彼女は言います。「もし私がコンゴを離れて諦めていたら、夫はきっと喜ばなかったでしょう」と彼女は付け加えました。



反乱者たちは、オカピ保護区での活動は終わったと思ったが、彼女のチームはあきらめなかった。

コンゴの熱帯雨林の中心にある、絶滅の危機にある野生動物たちの避難所——オカピ野生生物保護区に新たな希望を！



2025年2月18日のエプル（オカピセンター）へのオカピ再導入

- 13年前の悲劇的な襲撃の後、1頭のオカピがコンゴ民主共和国のオカピ野生生物保護区にあるエプル（オカピの飼育・適応センター）に戻ってきました。
- 2025年2月、RDCのオカピ野生生物保護区の森林警備隊は、オカピ保全プロジェクトと連携し、保護区本部のあるエプルに1頭のオカピを連れてくることに成功しました。
- イツリ州：欧州連合（EU）はエプルのセンター再開のための新たなオカピ捕獲を支援しました。

ジョン&テレーズ・ハート夫妻 の遺したもの



知って、そして守る

「私たちの使命は、コンゴ民主共和国がその希少種および絶滅のおそれのある種を保全できるよう支援し、さらに手つかずで広大な野生地帯に関する知識とその保護を促進することです。」



森林保全研究センターの植物標本庫

私自身のイプルでの活動の遺産



エプルの町の風景とICCN付属医療施設ー 2025年6月



当時一緒に活動を行った先住民族の仲間たちを訪ねて — 2025年6月





先住民族の人々の典型的な村- 2025年6月

最近活動を再開したオカピ関連施設での飼育風景



オカピ野生生物保護区に希望の光が見えてきました！



「みんなの夢は、もう一度オカピがエプルの関連施設に戻ってくることです。」
私たちは心から、現地の伝統的首長たち、若きリーダーたち、そして地域住民の皆さんに感謝の意を表したいと思います。